

大東文化大学 板橋校舎 1・2号館



外観



モダンなデザインと快適な学びの環境が両立した板橋校舎。1号館の全階と、2号館の1Fが改修工事の対象。1号館手前に見えるのは中央棟・図書館。



1号館 1F女性トイレ全体



女性トイレは、ナチュラルカラーの木目調のパネルが温かみを感じさせる空間。大便器ブースの間仕切り壁は、天井まで立ち上げ防犯対策を図っている。1Fトイレにはスタイリングコーナーを設置している。

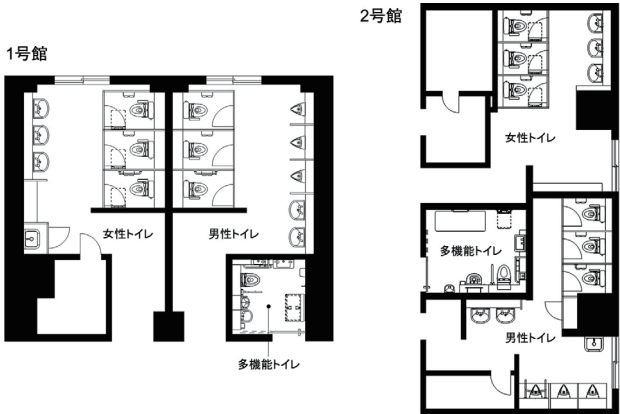


1号館 1F男性トイレ大便器コーナー



男性トイレは、ダークブラウンの木目調パネルを基調とした落ち着いた上質な空間。大便器は混雑時でも連続洗浄が可能なパブリックコンパクト便器・フラッシュタンク式を設置している。

トイレ図面



水まわりの特長

改修の経緯

大東文化大学は、1923(大正12)年に帝国議会の決議に基づき創設された大東文化学院が前身の歴史ある教育機関。8学部20学科を擁する総合大学として発展。各号館のトイレの老朽化が進んできたことから時代に即したトイレへの改修を実施。教室をはじめ、学生支援やキャリア支援など教務機能を中心とした1号館全階と、学外からの来訪者が多く、各学部研究室のほか管理機能を集約する2号館1Fトイレを改修した。

トイレの特長

1号館は、学生支援センターやキャリアセンター、学部事務室といった窓口があり、教室や大学院の研究室など学生利用者が多く、各階トイレはシンプルな設備を基本としながら、1Fは多機能トイレを配置、女性トイレにはスタイリングコーナーを設けるなど、利用者のニーズを取り入れた。各学部研究室のほか、会議室など学外からの来訪者が多い2号館は、トイレ横の設備室を縮小することで多機能トイレ新設のスペースを確保。全館共通して改修を機に和式便器をすべて洋式便器に変更。さらに、荷物が多い学生に配慮し、すべてのライニング奥行を250mmに統一。学生が快適に利用できるトイレ空間を実現している。

建築概要

名称	大東文化大学 板橋校舎 1・2号館
所在地	東京都板橋区高島平1-9-1
施主	学校法人大東文化学園
設計	学校法人大東文化学園 管理部管理課
施工	株式会社大林組(1号館) アネス株式会社(2号館)
竣工年月	(改修)2019年3月～10月
敷地面積	27,320㎡
建築面積	2,300㎡(1号館) 2,007㎡(2号館)
延床面積	11,106㎡(1号館) 15,549㎡(2号館)
構造・階数	鉄筋コンクリート造・地下1階、地上8階(1号館) 鉄筋コンクリート造・地下1階、地上10階(2号館)

おもなTOTO使用機器

パブリックコンパクト便器・フラッシュタンク式:CFS497／ウォシュレットP:TCF585S
棚付二連紙巻器:YH702／チャームボックス(汚物入れ):YKB102
自動洗浄小便器:UFS900／壁掛洗面器:L250
自動水栓:TENA41／水石けん入れ:TS126
化粧鏡:YM4560FE／コンパクト多機能トイレバック:UADB
ウォシュレットアプリコットP(擬音装置「音姫」付きエコリモコン):TCF5840
フラットカウンター多機能トイレバック:XPDA／収納式多目的シート:EWC520
フィッティングボード:YKA41／ベビーシート:YKA25R
ベビーチェア:YKA15R／クリーンドライ(ハンドドライヤー):TYC320



1号館 1F男性トイレ小便器・洗面コーナー

小便器は清掃性のよい壁掛壁排水自動小便器を採用。また、プライバシーに配慮し、小便器の間に間仕切りを設けている。



1号館 1F多機能トイレ



事務室や学生支援の窓口があり不特定多数が利用する1Fには多機能トイレを配置。器具はコンパクト多機能トイレバック(乳幼児連れ対応セット)とベビーシートを設置している。



2号館 1F女性トイレスタイリング・洗面コーナー



窓から自然光が射し込む明るい空間。手荷物が多い学生に配慮し、すべてのライニングの奥行は250mmに設定。さらに、スタイリングコーナーのカウンターは2段設置している。



2号館 1F男性トイレ小便器コーナー



大便器ブースの一番手前は、掃除道具などを入れる収納ブース。掃除用流しは、コーナーの一角に露出設置し、清掃業者のほか、配達業者などが手洗いしやすい配慮となっている。



2号館 1F多機能トイレ



管理機能が集約しており来訪者が多い2号館トイレは、デザイン性・機能性を兼ね備えたフラットカウンター多機能トイレバックを採用。さらに、収納式多目的シート、フィッティングボード、ベビーチェアを完備している。



2号館 改修前



改修前は和式便器が中心のトイレで老朽化が進んでいた。